

連載する覚悟も無く書き始めた続ける気のないSS&短編置き場

海洋竹林

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

全てはタイトルの通りです。

目次

くとある魔術の禁書目録くなんでこうな
らなかったのか不思議な絶対能力進化実

験

1

くとある魔術の禁書目録くなんでこうならなかったのか 不思議な絶対能力進化実験

——絶対能力進化実験

学園都市第三位たる「超電磁砲」御坂美琴のクローン二万人を殺害することで、学園都市第一位の「二方通行」を「最強」から「無敵」へと進化させる実験だと聞いていた。

そもそも最強である自分がさらに能力を高める必要性は感じないし、何より研究者達の好奇心と探求心ごときのために労力を割かれること自体が気に入くない。第一、最強を超えて無敵になれば馬鹿共が挑んで来ることもなくなるなんて言う戯言は考えるに値しない空言だ。

——しかし、だがしかし一方通行がこの実験に参加したのは、

——今とは違う景色が見たい

——この閉塞した環境から脱したい

という、「無敵」に対するわずかばかりの期待と希望があつたからに他ならない。

だ。というのに、

『さあ、実験を続けたまえ。』

「了解しました。」

ダトイウノニ、コレハナンダ？

こちらに有効な攻撃手段も持たず、大した力を籠めずなくともはかなく命を散らす人形。
御坂クローン

そして、そんな案山子を二万体制したただでこの【最強】が次の段階へと進化すると信じて疑わない愚か者ども。
研究者たち

これでは、

……これでは、自分を本気で打倒しようと様々な策を巡らす馬鹿共の方がマシではないか。
スキルアウト

ふざけるな!!

[illegible]

「ぎぐあつ！」

そして気づけば一方通行は、強化ガラスの向こう側にいた科学者の一人の胸倉を掴み上げていた。

「ひっ！あ、アクセレータ!？」

気に喰わない。

こんな何の意味も持たない実験を考え出した愚か者どもも。研究者たち

そしてそんな実験にわづかばかりの期待を抱いてしまった自分自身も。

そしてそんな苛立ちのままだに、掴み上げていた研究者の一人を投げ捨てた一方通行は、天井を突き破って実験場を飛び出した。

というわけで、今回のオチというか解説。

まず前提として、科学サイド最高峰の演算能力を持つ一方通行は、並みのスーパーコンピュータを凌ぐ頭脳を持っている。そしてそれはつまり、実験を考え出した研究者たちよりも、一方通行の方が頭がいいということでもある。

そしてそんな優秀な頭脳を持つ一方通行だからこそ、彼はこの実験が何の意味もないということ、拳銃一丁のみを帯びて自分に挑んだ超電磁砲のクローンを見た時点で気づいてしまった。

もしもというかありえざる仮定の話だが、例えばAIMジャマーやナパーム弾を持ち出して本気で一方通行を殺そうとすれば、こんな結果にはならなかったろう。たとえ効かないとしても、一方通行は二万回繰り返し返すうちで自身の攻略法が洗練され、自分の経験値となつてレベル6に到達する一助となることを期待して実験を継続したはずだ。

結局のところこれは、超電磁砲を複製することばかりにかまけ、一方通行に経験を積ませるという実験本来の目的を度外視していた科学者たちの、自業自得である。